

明日 への 話題

アベノミクスの 5年間



公益財団法人 資本市場研究会
理事長

しのざわ きょうすけ
篠沢 恭助

平成30年の新年、おめでとうございます。

安倍政権が満5年を過ぎ、名目成長率の右肩上りが“いざなぎ”超えでなお継続中である。そして最近では経済の質の改善のニュースが増えた。なにより「需要>供給」の状態が確かなものになり、需給ギャップの宿痾が消えた。潜在成長率も低いながらも1%近傍まで上ってきた。企業の設備投資も持ち直した。労働力不足の下、雇用統計は好調を続けている。実質賃金はまだ厳しいが長い間聞くことがなかった「ベア」という言葉が近年聞こえてくるようになった。株価の値上がり、底堅さが雰囲気をも明るくしている。

ここに至るまで、アベノミクス「第1の矢 金融の異次元大緩和」と「第2の矢 機動的財政出動」が良く機能したと思う。「第1の矢」は円安をもたらして企業収益に貢献し、「第2の矢」は特に平成27年からの景気の一時的後退期に13兆円経済対策(28年8月)で力を発揮した。この時期には、企業が高い利益を設備更新に廻さずに巨額の内部留保を積んでいるとか、金融機関からは貸付先が無くてカネが出て行かないなどと言われ、細る民間のカネの流れを財政資金が潤している印象であった。なおこの頃、消費税率10%の再延期が決定された。今、アベノミクスは第2ステージに移り、「新3本の矢」、「一億総活躍プラン」、「Society5.0の実現」、そして「働き方改革」が進んでいる。

さて、高齢社会の急速な深化に伴って今でも政府債務残高が毎年増加し続けている。最近の常春的な経済状況の下で、この問題への国民的関心が薄らぐことのないようにお願いしたい。すぐ「オオカミ少年」と言われてしまうのだが、いったん国際政治やバブルなどによって市場に大きなショックが起きれば、国債の価格急落=利廻り急上昇が発生し、既発債は売られ、新発債の発行は困難となる。そうなるからでは手に負えない。政府の掲げている財政再建方針の「PB* (プライマリ・バランス) 赤字ゼロ」への努力がねばり強く続けられ、国民の安心、市場の信認につながることを期待したい。因みに現段階(29年度)では国・地方合計のPBは対GDP比マイナス3%台(つまり18兆円余の赤字)であり、前途は容易ではないのです。

*基礎的財政収支。毎年度ごとの、公債の利払費・償還費以外の政府全支出を通常税収でカバーできる割合を対GDP比で示す。